

平成 30 年 3 月 26 日

南 の 風 2 6 5

南部ミニバスケットボール連盟

会 長 藤原 敬一

『強いチームをつくるには』という話題の2つ目は、3つのキーワードについてです。

始めに断っておきますが、ミニバスや中学校の部活は「**勝つことだけが目的**」ではなく、**バスケットボール競技の楽しさや醍醐味を味わうことと、バスケットボールの活動を通してよりよい人間関係を築く**ということを踏まえた上、話を進めていきます。

まず1番目は、「**戦力**」です。すなわち「人（選手）」です。如何に優秀な人材を確保するかなのです。しかし当然のようにミニバスや中学の部活では、基本的に選手は決められた地域、学区からしか集めることはできません。限られたエリアの中で「戦力」を整えることになります。

まず、身体能力（身長、体重、走力、跳躍力、筋力等）と運動能力（コーディネーション能力）に優れている、所謂**テクニカル・スキル**が高い選手を集めることができれば、それだけ強いチームになる可能性は高くなります。但し、こういう選手が何人もいるチームは、上記に示した理由で数少ないのです。決められたコート上の人数（ミニバスは10人、中学は5人）を集めるのにも窮しているチームや学校がたくさんあるのが現状です。

それでは、テクニカル・スキルが高ければ十分かと言えば、答えは「**ノー**」です。チームスポーツであるバスケットボールでは、**ヒューマン・スキル**と言うべきものが重要になってきます。

ヒューマン・スキルとは何でしょう……。一言で言えば「人間性」です。

- 1 他人の話をきちんと聞く。
- 2 チームでやるべきことに、自分から立ち向かう。
- 3 ルールや約束を率先して守る。
- 4 勝敗に対して正しい態度が取れる。

上記した他にもあると思います。

一つ例を挙げます。4についてです。自分たちがボロ負けした時、相手に対して「よくやった」というのには勇気がいります。相手の強さを褒め称えることは、自分たちの弱さや非力さを認めることにほかならず、これほど悔しいこともないからです。一方、勝った時はつい驕り高ぶった気持ちになり、相手に対する敬意を忘れがちになります。『**勝って驕らず、負けて素直に相手を讃える**』と言うのは、言葉で言うほど簡単なことではありません。（これはコーチやスタッフにも言えることです。）

したがって、1～4すべてを小学生や中学生の選手に一気に求めることは、当然難しいことです。コーチとして常に念頭に置いて、日々の活動でスパイラルに指導しなければならないと思います。

チームスポーツは一人で戦うわけではありません。いくらテクニカル・スキルに優れた選手を集めたとしても、チームの勝利より自分の活躍を優先する選手ばかりでは勝つことは難しくなります。

さらに言えば、テクニカル・スキルが目に見えて、計量化できる力だとすれば、ヒューマン・スキルは目に見えにくい、計量化しにくい力だと言えます。それをしっかり見極められるかが、チームを束ねるコーチ、指導者には求められるのです。